

久留米

[July 18, 2018]

高専通信

第87号

久留米工業高等専門学校
〒830-8555 久留米市小森野1-1-1
TEL:0942-35-9300
<http://www.kurume-nct.ac.jp/>



久留米工業高等専門学校
校長 三川 譲二

新入生への言葉 「創造性」(Creativity) について

久留米高専は、「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」を教育理念として掲げています。この「自立の精神」(Spirit of Independence)、「創造性」(Creativity)、「広い視野」(Broad Vision)、「豊かな心」(Humanity)、そして「社会貢献」(Contribution to Society)は、本校がめざすエンジニア育成像を示すものでもあります。ここでは、このうち「創造性」についてお話しします。

国立高等専門学校機構の中期目標・中期計画の前文には、「グローバルな視野を持って社会の諸課題に立ち向かう、科学的思考を身につけた実践的・創造的技術者を養成することにより、高等学校や大学とは異なる高等専門学校の本来の魅力を一層高めて行かなければならない」とあります。創造的技術者の育成は国立高等専門学校の教育の至上課題となっていると言っても過言ではありません。しかしながら、この創造性を養う、皆さんからすると創造性を磨くということになるわけですが、これは必ずしも容易ではありません。

iPS細胞の発見で2012年ノーベル生理学・医学賞を受賞された京都大学教授山中伸弥先生と、将棋棋士で、前人未達の「永世七冠」の称号を得て、本年2月国民栄誉賞を受賞された羽生善治さんとの対談集『人間の未来、AIの未来』(講談社)の中で、羽生さんは、「棋士をずっと続けてきて経験的に知ったことがいくつかあります。前例のない手が指され、それをきっかけに形勢が大きく有利に傾いたとき、その手を「新手」と言います。でも自分が「いい新手を思いついた!」ということがあっても、だいたい他の誰かがすでに思いついている、そう思ってほぼ間違いないんです。山中先生の場合は、非常に斬新な発想とアイデアで研究を進めてこられました。他人と違う発想をするためには、どういうことが大切だと思われますか」と問いかけておられます。

これに対して、山中先生は、他の人と違うことをやろうと思ったら、次の三つのパターンしかないと答えておられます。一つ目は、「アインシュタインみたいに、もともと天才というパターン」。二つ目は、「実験という手段で自然に問いかけると、まったく意外な反応を示してくれる」、すなわち「実験をしてみて、予想していなかったことが起こったときに、それに食らいつけるかどうか」、「それを「これは面白い」と喜べるかどうか」というパターン。三つ目は、「自分も他人もみんな「これができたら素晴らしい」と考えているんだけども、「無理だろう」とあきらめて、誰もやっていないことに敢えてチャレンジするというパターン」です。山中先生は、その中で二つ目のパターンがいちばん大切だが、iPS細胞は、三つ目のパターンで発見したと述べておられます。

結局、山中先生は、天才でない限り、「教科書」、すなわち「過去の知識や経験」を十分学んだうえでのことですが、想定外の実験結果から思わぬ真理を発見したり、失敗を恐れず新しいことにチャレンジし続けたりすることによってのみ、「既成概念」を打破し、ブレイクスルーを起こすことができると説いておられるわけです。そして、「何か新しいことを発見して世に問えば、評価されて努力が報われます。場合によっては、その発見によって社会や人類に貢献することだってできるわけです」とも述べておられます。

新入生の皆さんが、久留米高専において、事実や実験データを大切にすると同時に、たとえそれが予想外のものであってもたじろがず、逆にチャンスだと思う、あるいは自分の「夢」や「志」を簡単には捨てず独自のアイデアの実現に粘り強く挑戦し続ける、そうした姿勢を学ぶことによって「創造性」(Creativity)を育み、将来社会に貢献できる技術者として大きく成長していけるよう心より期待しております。ご研鑽あれ!

新入生の抱負

久留米高専に入学して

機械工学科 1年 太田 杏奈

私が久留米高専に入学してからはや1ヶ月が過ぎもう2ヶ月が経とうとしています。

私が最初久留米高専を受験しようと思った時、第1志望は生物応用化学科でした。しかし、高専であった学校説明会の時私は運命の出会いを果たしました。歯車に出会ったのです。展示室に飾ってあった歯車を見て私は心躍りました。歯車を触ってみてとても興奮したのを覚えています。日常生活のなかでもよく見る歯車が少し寸法が違っただけで歯車が噛み合わなくなり回らなくなったり回しにくかったりしてしまうものだったのかと興奮しました。そして私は決めました。機械工学科に行って歯車を作ろうと。

ついに私は久留米高専進学への切符を手にして、今、久留米高専に通うことが出来ています。この学校に入って思ったことがいくつかあります。1つ目はとても自由だなということです。今までとは違いとても自由な校風に驚きました。2つ目は先生方の個性の強さです。この学校に来て1番驚いたことと言っても過言ではないと思います。どの先生にお会いしても1人として似ている個性の方がいらっしやらないなと思いました。3つ目は学校の居心地がとてもいいことです。今までとは比べ物にならないくらい学校がとても楽しいです。今、学校で1番楽しいことは機械加工実習です。こんなに素人の私でも先生の指示にしたがい先生のおっしゃったように道具を使うだけである程度思い通りのものができることが嬉しくて仕方ありません。1週間の授業の中で自分が楽しんでしていることが出来る時間があるのが有難くてしかたありません。この実習のおかげで私は、苦手な科目も頑張ることが出来ています。この実習を糧に目標の実現に向かって頑張っていきたいです。

私の高専での目標は3つあります。1つ目は歯車のことをしっかりと理解することです。歯車のことなら何でも知っていると胸を張って言えるくらいになりたいです。2つ目はしっかりとストレートで卒業をすることです。その為に日々少しずつ学習を頑張っていきたいです。3つ目は親孝行をすることです。今まで迷惑をかけてきた両親に少しでも親孝行をしたいです。この3つの目標を卒業の時には実現したいです。これからの5年間充実したものにしていきたいと思います。

高専での生活と意気込み

電気電子工学科 1年 田代 滉太

わたしは物づくりが好きでその中でもロボットを作りたいと思っていました。そこで工業系の学校で家からも近い久留米高専の体験入学に行きました。そこで5年生の卒業研究をみて「やりたいことはこれだ」と思い、電気電子工学科を受験しようと決意しました。無事入学でき、はやいもので3ヶ月がたちました。

高専の最初の大きな行事は夜須研修でした。そこで今まで話したことがなかったクラスの友達にも積極的に話しかけました。研修でのフィールドワークではクラスで団結して作戦などを立てるなど、コミュニケーションをとることができました。そのあとにあった学科対抗レクリエーションでは、みんなで声を掛け合いみごと1位になることができました。クラスの仲が深まったすごくいい思い出になりました。たくさんの競技があり、それらをすべて中央執行委員会が考えて作り上げていたものだったので、やっぱり高専はすごいなあと思いました。

夜須研修のあと行われたクラスマッチではサッカーやバスケ、ドッジボール、バレーなどがありました。良い結果は出せませんでした。がみんなで協力して来年は、もっと楽しめたいなと思います。

つい先日まで初めての中間テストがありました。そこでは特別な教科のプログラミングのテストもありとても新鮮でした。初めてのテストという不安もあり、友達と集まって勉強を教えあったり、アプリで問題集を作りあったりしてテストに臨みました。しかしまだまだそれだけでの勉強では足りませんでした。改めて毎日1時間以上予習復習をしなければと思いました。

そしてわたしは、バトミントン部にも所属しています。バトミントン部は、先輩たちがやさしく、指導してくれるのでとても楽しいです。これから高専大会などもあり大会も充実しています。文武両道を目指して頑張っていきたいです。

久留米高専は自立の精神を大切にしているので他の高校より自由ですが、責任をとまいません。やらなければならないことをきちんと行い、みんなについて行けるように生活習慣を乱さずに高専生活を送っていきたいです。

また久留米高専は5年間あります。クラスみんなで助け合って一人もかけることなく卒業を迎えられるように頑張りたいです。何事にも積極的に、全力で、努力して社会で認められる技術者になりたいと思います。

新入生の抱負

高専に来て3ヶ月

制御情報工学科1年 佐藤 歩武

久留米高専に入学して、約3ヶ月が経ちました。入学したばかりの頃は、緊張と不安の毎日でしたが、今では高専生活に慣れ、友達もできて、充実した日々を送ることができています。

高専に来て、一番最初の大きな行事は、4月に行われた夜須研修でした。この研修では、クラス交流会や、学科対抗のオリエンテーリングなどをしました。研修前までは、クラス内での会話も少なく、あまり元気がないイメージでしたが、この研修を通して、お互いをよく知ることができ、クラスの雰囲気もよくなったと思います。また、学科対抗のオリエンテーリングをして、クラスの団結力も、より一層強くなりました。

5月には、クラスマッチがおこなわれました。このクラスマッチでは、クラスの一人一人が自分のやりたい競技に出て、クラスや学年ごとに戦い、優勝を目指しました。今年は、あまりいい結果を残すことができませんでしたが、みんなが全力で、そして何よりも楽しむことを忘れずにプレイできていたので、とてもいい思い出になったと思います。また、このクラスマッチは、企画・運営を全て先輩方がされていて、改めてすごさを感じ、「自分も先輩方のようにになりたい」という強い憧れを抱きました。

私も、学年が上がり、いつか行事を運営する立場になったら、しっかりと進行ができるように、今のうちから先輩方の姿をみて、学んでいきたいと思っています。

私は、この久留米高専に入学できて、本当に嬉しく思っています。久留米高専は、他の高校と比べても、自由な学校だと思います。自由だからこそ、できることはたくさんあります。例えば、自分の学びたいことに時間を費やすことができるなどです。でも、その「自由」の意味を履き違えてはいけません。高専の勉強は、難しいことで有名です。今はまだ授業についていけていますが、授業の内容はこれからどんどん難しくなっていきます。難しい授業内容についていくためには、やはり、予習・復習が一番大事です。自由だからといって遊んでばかりいるのではなく、勉強はもちろん、部活や学級のことも、しっかりめりをつけていきたいと思っています。

せっかく掴んだ久留米高専という「チャンス」を無駄にしないように、一所懸命勉強し、5年間の高専生活を思い切り楽しみたいと思います。

技術者への一步

生物応用化学科1年 深海 陽向子

久留米高専に入学して、二か月と少しが経ちました。だんだんと生活にも慣れ、高専生としての自覚を持ち始めました。入学してから今日までは、あっという間でした。しかし、毎日が充実しておりとても楽しい生活を送っています。

この二か月と少しという期間でも、思い出はたくさんできました。夜須研修では、先輩方が考えてくださったオリエンテーリングや学科紹介からクラスの仲が一気に深まりました。クラスマッチでは、試合に出る人も応援もクラスが一丸となって競技に臨むことができました。

また、多くの人が部活に熱心に取り組み、新しい事に挑戦し、頑張っています。たくさんの優しい先輩方や先生方に囲まれて、恵まれている環境に感謝する日々です。

今後、高専での五年間の教育の中で多くの事を学んでいくと思います。もちろん専門知識といった勉強面もそうですが、人間関係などから学ぶ事もあるでしょう。そして五年間という一般的な学校よりも少しゆとりがあることで、自分の心を見つめる時間を作ることができます。この五年間の使い方、一人の人間として大きく成長ができると思います。そして社会に貢献できる技術者となって、卒業したいです。

最後に、私はこのクラスをメリハリのあるクラスにしたいと思っています。行事は思いっきり楽しんで、勉強するときは皆で頑張れる雰囲気を作るクラスにしたいです。やる時はやる、楽しむ時は楽しむという区別をつけることができ、皆で一つの目標に向かって努力ができるクラスにしていきます。そして、クラス全員の居場所が教室にあって、皆で笑いあえるような、そんな暖かいクラスを作りたいです。これから五年間を共に過ごしていく中で、皆さんの問題や困難に直面するかもしれません。そんな時は、クラス全員で協力して乗り越えていきたいです。このクラスで皆さんの思い出を作り、私たちの人生の中で濃い五年間にしていきたいです。



新入生の抱負

高専での目標

材料システム工学科 1年 小田 駿

僕が久留米高専の進学を選んだ理由は、学生が自立し、自主的に行事などを作り上げていくこと、就職率が高いということを知ったからです。

昨年の10月に参加した体験入学で、実験や実技が多く取り入れられていること、また、ほかの学校と違った自由な校風と知って、強く心が惹かれました。入学説明会では、「自由な環境の中でこそ、新しい発見や新しい発想が生まれる。多くのことを経験しなさい」という話を聞いていたので、高専に合格した時は、本当によかったと思いました。

僕の高専での目標は、三つあります。

一つ目は、大学に編入するために勉強に励むことです。大学編入は上位の成績が必須であるため、授業をしっかり聞き予習、復習を行っていききたいです。とくに、世界に通用する技術者になるために必要な英語力をつけていきたいです。今の僕は決して英語は得意とはいえませんが、勉強をして3年生までに英検2級以上を取得したいと思っています。また、可能であれば、海外で英語を使用して活動したり、その国の文化にふれたりすることで、視野を広げていきたいです。最初はきつく感じた90分授業にも少しずつ慣れてきました。レポートを書いたり、自分の考えをみんなにわかりやすく伝えたりすることは、今まで経験することが少なかったのでもうまいかないこともあります。一人で頑張るところ、友達と協力するところを自分で考えて行動し、成長していきたいと思っています。

二つ目は、部活動や行事を通しての人間関係づくりです。出身校からこの学校に入学した学生は僕一人だったため、はじめは友達ができるかととても不安でした。しかし、个性的でおもしろく、優しい友達に恵まれ、今では楽しい学校生活を送っています。一生の宝物になるような友達関係が築けるよう、遊んだり、競い合ったり、協力したりするなかで、友情を深めていきたいです。

三つ目は、自分磨きです。自由な時間に本を読んだり、ボランティアをしたりして、自分を磨いていきたいです。高専だからこそ、時間をうまく使うことができれば、ほかの学校ではできないような体験がたくさんできると思います。5年間、1日1日が無駄にならないよう、精一杯努力していきたいです。

僕の将来の夢は、人の役に立つ物づくりに携わる技術者になることです。具体的なことはまだ決まってはいませんが、高専で学ぶことを通して、自分のやりたいことを見つけていきたいです。自由な校風のなかで責任と目標を見失わず、自分の力を伸ばしていきたいです。

夜須研修

夜須研修運営について

材料工学科 3年 西田 美紅

今年度、学生会中央執行委員会の渉外局長を務めております、3年材料工学科の西田美紅です。初めての大きな仕事は夜須研修の運営ということで、1か月前の準備の時から大変緊張していました。

1年生の時、夜須研修で夕べの集いや朝の集いでマイクを持たされて、これを言ってねと言われてから2年。今度は拡声器をもって、自分で全体へ指示を出す渉外局長になるとは誰が予想できたでしょうか。私自身が前に立つ度に驚いていました。

1年生にとって思い出に残るような夜須研修にしたいと思い、過去2年間の反省をもとに全体のスケジュールなどを考えていました。上級生として、夜須研修に参加したのが2年生の時の1回だけということもあり、わからない所も多く中執の先輩方にもたくさん相談してアドバイスもいただき今回の夜須研修に臨みました。

夜須研修1日目のオリエンテーリングでは、大幅に遅れた班もなく楽しそうな笑顔で帰ってきた1年生が印象的でした。その後の私の言葉足らずな指示の影響で、1年生を混乱させてしまった時もありましたが、そこは他の上級生がカバーしてくれました。また私の配慮不足な点もありましたが、上級生達が臨機応変に動いてくれました。とても感謝しています。

2日目は主に体育局が中心となってレクリエーションを行いました。1年生もアシスタントでそれぞれの学科に入ってくれている学科代表の5年生も楽しそうで、見ているこちらもしっかり楽しかったです。今回レクリエーションを企画・運営してくれた中執体育局は2週間後にクラスマッチを控えており、忙しい時期だったにも関わらずレクリエーションの企画・運営を引き受けてもらいました。結果として、成功したと思います。局長をはじめとした体育局の皆様、本当にありがとうございました。

1番最後に高専建児をした時の達成感は何物にも代えがたく、頑張ったよかったと思わず涙してしまうものでした。今回の研修は例年よりも素晴らしいものだったと中執の先輩方たちにもお褒めの言葉をいただき、とてもうれしかったです。今回の夜須研修を通して、また新たに改善点が見つかりました。そこは、しっかり渉外局内でも反省して来年度はさらによい合宿研修にしたいです。

最後に、今回、上級生としてついてきてくれた中執メンバー、学科代表の皆様、写真部の皆様、そして教職員の皆様。本当に至らない点が多かった私のサポートをしていただきありがとうございました。

留学生紹介

留学生紹介

電気電子工学科3年 オユンボルド

初めまして、オユンボルドと申します。今年の4月にモンゴルから日本に来ました。電気電子工学科の三年生です。私はバレーボールやバスケットボールなどボールゲームが好きです。私の好きな教科は物理です。モンゴルでは2年間日本語の勉強をしていました。留学先に日本を選んだのは自分の好きな分野が電気系で、日本は電気の技術が優れていると思ったからです。しかし、外国に留学するのは初めてなので心配でした。でもここに来たらやさしい先生たちのおかげでいろいろな手続きができてほんとうに感謝しています。日本に来るまえは友達をつくるのはむずかしいと思っていましたが、寮の部屋にいる時クラスの友達が「はじめまして」と声をかけてくれてとてもうれしかったです。これから3年間勉強以外もいろいろ楽しみたいです。どうぞよろしくおねがいします。

生物応用化学科3年 シンディ

私はシンディと申します。インドネシアから参りました。私は久留米高専に入る前に、東京の日本語学校で現在の担任の先生に会って久留米高専と寮生活に関する様々なことを相談しましたが、まだ少し不安がありました。なぜなら、私の日本語のレベルがまだ高くなく、授業が理解できないのではないかと心配しましたから。

しかし、久留米に入った後、この不安な感じがだんだん減ってきました。最初、何もわかりませんでした。担任の先生が実験のことやレポートの書き方など様々なことを教えてくれました。担任の先生だけじゃなく、他の先生たちも親切に手伝ってくれます。授業に関することがわからなかったら、先生の教員室に聞きに行くようにしています。それに、同級生も優しいです。クラスマッチの時にはみんなと一緒に写真を撮りました。

今は学校の寮に住んでいます。女性の寮はとてもきれいで、安全だと思います。それに、学校から非常に近くて便利だと思います。

久留米高専に入って二か月ぐらいたった今でも、大変なことはまだありますが、心配事は特にありません。



新任教職員紹介



鴨川 都美

所属 一般科目(文科系)

職名 准教授

採用日 平成30年4月1日

前職 日本女子大学文学部 助教

抱負 国語、日本文学、日本語を担当します鴨川都美と申します。この3月までは女子大学で、助教として修学支援や日本文学、文章表現法などの授業を担当していました。専門は日本の近現代の演劇と文学です。個性豊かで何事にも全力で挑戦することのできる久留米高専の学生のみなさんとの授業は、新鮮な発見が多く、毎日がとても充実しています。「どうして高専で国語を勉強しなければいけないのか？」という声も聞こえてきますが、「読むこと」「書くこと」は、文理関係なく研究したことを広く伝える手段として必須であり、さまざまな物事を論理的に考える訓練にもなります。まずは国語を好きになってもらえるような授業を展開していくために、日々研鑽を積んでいきたいと思っています。

趣味 映画鑑賞・山歩き・食べ歩き(もちろん、観劇も読書も大好きですが、研究の一環でもあるので、趣味というには・・・)



寺田 浩一

所属 事務部

職名 部長

採用日 平成30年4月1日

前職 国立大学法人九州大学
研究・産学官連携推進部長

抱負 ちょうど10機関目の転勤となります。初の高専勤務です。変化の後追いではなく、変化を創り出す高専になってほしいと願っています。学生、教職員の皆さんがワクワクして勉学や仕事に励める久留米高専になりますよう、諸課題の解決に向け専心努力してまいります。ご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

趣味 フルマラソン



池永 雄一郎

所属 総務課用度係

職名 用度係長

採用日 平成30年4月1日

前職 九州大学病院
経理課用度第二係

抱負 4月に九州大学より転任して参りました。九州大学では附属病院で14年半、うち用度系の係に6年勤務しておりました。引き続き用度係ですが、病院時代は病院特有の契約ばかり担当しておりましたので、こちらに来て毎日新鮮な気持ちで仕事をしております。早く皆様に顔と名前を覚えていただき、お役に立てるように努力してまいりますので今後ともよろしくお願いいたします。

趣味 読書、野球観戦

クラスマッチ報告

2018前期クラスマッチ

中央執行委員会体育局局长
生物応用化学科3年 中尾ひより

5月15日及び16日に前期クラスマッチが行われました。今年は学年暦の変更により例年より半日長い2日間の日程でした。競技は、サッカー、バレー、バスケ、女子ドッジ、女子バレー、大縄、さらに新競技として男子ドッジを追加しました。複数競技の試合が被ってしまったことによる入れ替えや、ルールに明記されていない状況の判断などはありませんでしたが、大きな問題はなく、2日間無事に終えることができました。

そして今回も白熱した試合が見られました。結果はこのようになりました。

サッカー… 1位4E、2位4A、3位5A バレー… 1位1M、2位5A、3位3M バスケ… 1年の部1位1C、2位1A、2年の部1位2A、2位2M、3年の部1位3E、2位3S、4年の部1位4M、2位4A、5年の部1位5A、2位5C 女子ドッジ… 1位こぼやしスターズ、2位なかしまブラザーズ 女子バレー… 1位ラストJK、2位いればんず 男子ドッジ… 1位高専野球部、2位4Sの精鋭、大縄… 1位4E(30回)、2位2S(29回)、3位5A(24回) バレーは5年生を破り1年生が優勝するという、波乱の試合となりました。女子ドッジは今回、参加チームが普段よりも多く、女子の活発さが感じられる試合が行われていました。男子ドッジは初の試みでしたが、募集上限を上回るチーム数の応募がありました。こちらではスピード感のある試合が行われていました。大縄は今回から順位のつけ方が学年別から全学年対抗に変わりました。大縄をするにはクラスで22人が必要ですが、それにもかかわらず16クラスの参加があったので、多くのクラスが団結を深めることができたのではないのでしょうか。私は体育局長として、前期クラスマッチが学生のみなさんの思い出に残るクラスマッチになればいいと思います。そして、今回の反省も活かして、後期クラスマッチをより良いものにしたいです。

最後に、クラスマッチを運営するにあたって、審判をしてくださった部活動生のみなさん、試合の見守り、ゴールやグラウンドの整備、その他諸々協力してくださった中執のみなさんには本当に感謝しています。ありがとうございました。

文化部発表会

文化部発表会

生物応用化学科4年 鬼木 秋実

6月23日(土)に第七回文化部発表会を開催しました。今回は、広報用に作成したポスターとメインストリートに掲示した看板のSNSや口コミでの反響が大きく、過去最高となるのべ1094人の方にお越しいただきました。

本文化部発表会では、計10の文化部が参加しました。展示について、体育館では新聞文芸部・美術部・写真部・鳥部・ロボコン部、ウェーブホールではプロラボ部、記念館では茶道部が日々の活動成果を披露しました。自由な校風が生み出した独特な感性に足を止める方も多くいらっしゃいました。ステージでは、軽音楽研究部・吹奏楽部・ダンス部が出演しました。練習を重ね、築きあげた演奏やダンスは会場にいらした多くの方の心を魅了しました。また、毎年恒例の一年生コンテストは、まだ入学して間もない初々しさを感じさせるも、協力し合うその姿はこれからの久留米高専をつくる彼らに頼もしさを感じました。

今回のテーマは、「文化部発表会、いっぱいちゅき♡～あぁ～文化の音ォ～!!～」でした。ふと、思う時があります。僕らは、一体何のために文化部発表会を開催しているのか、と。答えはただ一つ。ただただ文化部発表会が好き、いや“好き”を超えた“ちゅき♡”だからです。久留米高専生の“いっぱいちゅき♡”が奏でる、愛してやまない文化の音はいかがでしたか？もし、「あぁ～文化の音ォ～!!」と声にだして感じていただけたのなら、この上ないです。

今回の文化部発表会は、しとしとと雨が降る中の開幕でした。しかし、プログラムが進むにつれ、会場の熱気は最高に達し、それが空に伝わったかのように最後には晴れ間が見えていきました。このような盛り上がりは実行委員だけでは不可能でした。本文化部発表会の大成功は、展示・ステージ出演いただいた文化部の皆さん、学生課の方々、そして何より当日ご来場いただいた皆様のおかげであったと心底から思っております。この場を借りて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。そして、高専祭をお楽しみに!!!



寮行事

寮の行事報告

寮生会広報委員長 今富 大介

対面式

4月6日、学生寮食堂にて学生寮対面式を開催しました。今年には新入寮生47名に加え、男子留学生1名（電気電子工学科3年）、女子留学生1名（生物応用化学科3年）計2名の留学生を迎え、寮生の総数は172名となりました。



尾に、適宜寮生会役員を列に配置させ、整然と避難場所への移動を行いました。移動開始から30分後には、篠山小学校周辺において筑水寮、つつじ寮あわせて参加者約70名全員の点呼確認を無事終えました。



春の寮祭

4月14日に寮祭が行われ、外国人留学生を含む寮生約160名が参加しました。日中は雨の影響もあり、第1、2体育館にて、グループに分かれてのスポーツ大会（ドッジボール、バスケットボール）を行い、十分に汗を流した後、夕方からはバーベキューパーティーを実施しました。雨風共に強く、17時ごろまでテントを立てるかどうか難しい判断を余儀なくされましたが、寮長（材料工学科4年）と文化委員長（生物応用化学科4年）の的確な判断と迅速な対応により、テントを設営し、小雨が降り続く中ではありましたが、おいしい食事を囲んで、お互いの親交を深め合った楽しい寮祭となりました。



ヘルスチェックキャンペーン

5月15日の11時30分から14時にかけて、寮食堂でヘルスチェックキャンペーンが行われ、多くの寮生が参加しました。今回のキャンペーンには約70名の寮生及び教職員が参加し、骨の健康チェック、推定血管年齢チェック、ストレスチェック、肌水分チェックといった様々なチェックを受けました。寮生たちには自分の健康状態を知り、普段の生活習慣を見直すいい機会となりました。



避難訓練

4月20日に避難訓練が行われました。当日は避難命令の寮内放送が流れると、寮生たちは非常階段を使って迅速に筑水寮玄関前に集合し、素早く点呼をとりました。男子副寮長（生物応用化学科4年）および広報委員長（材料工学科4年）を先頭、男子消防副隊長（電気電子工学科3年）を最後

テーブルマナー講習会

6月9日に寮食堂にてテーブルマナー講習会が開催されました。日頃から寮食堂で食事を提供して下さっている株式会社魚国総本社九州支社の全面協力のもと、洋食のコース料理におけるテーブルマナーを、実際にコース料理を楽しむながら学びました。講習会にはスーツにネクタイ、または学生服に身を包んだ19名の寮生が参加して、本格的な料理を慣れない手つきで楽しんでいました。テーブルマナーについて、普段あまり意識することはありませんでしたが、この講習会を通して参加者たちは正しい知識を得ることができたでしょう。

公開授業

保護者の皆様への公開授業について
教務主事 辻 豊

保護者の皆様への公開授業を4月16日(月)～4月18日(水)の3日間実施しました。授業開始は9日(月)でしたので、見ていただいたのは2回目の授業ということになります。合計116名(1年生:38名、2年生:33名、3年生:29名、4年生:7名、5年生:9名)の参加がありました。

ご回答いただいたアンケート結果は、開催時期:適切(91%)、授業:わかりやすい(88%)、学生:真剣に取り組んでいた(90%)となっており、おおむね良好だったようです。

今回、1年生の保護者の参加が少なくなっておりました(昨年:94名)。例年、入学式の必要書類の中に同封し、公開授業のご案内をさせていただいておりましたが、今年度は手違いで同封していませんでした。(この場を借りてお詫びさせていただきます。申し訳ありませんでした。)公開授業を楽しみにしておられる保護者の方も多数おられるようですので、今後、このようなことがないように努めていくとともに、後期に実施することを検討します。実現した時には足をお運びください。

いじめについて思った事

機械工学科1年 町谷 斗紀旺

私が、いじめ防止講演会を受けて驚いた事は、中学～高校までの間にいじめの加害者・被害者になった事のない人は、2割しかいない事です。逆に、いじめの加害者になった事のある人は8割もいるのです。とても多く感じました。

いじめを受けた事がある人がたくさんいるのにいじめが減らないのは、なぜだろうかと、私は思いました。私は周りが見て見ぬふり、または、面白がっていじめを止めようとし、自分もいじめられるかもしれないと思いいじめを止めないからだと考えます。周りでいじめが知っている人の中にはいじめを受けた事がある人がいるはず。いじめを受けた事がない人でもいじめの恐さや、苦しみ、辛さは分かるはず。いじめをそのままにしておくと、エスカレートしていきいじめが風景の1部にしか映らなくなってしまいます。

いじめの被害者は、だんだん反撃、脱出する気が無くなってしまい、人間不審や不登校・引きこもり最悪の場合、自殺をしてしまいます。そうなる前に友達、先生や親などの頼れる大人に相談したり、いじめを止めたりして、助けましょう。

いじめが起こった場合、周りの人は、被害者の安全を確保し、孤独感を解消しましょう。

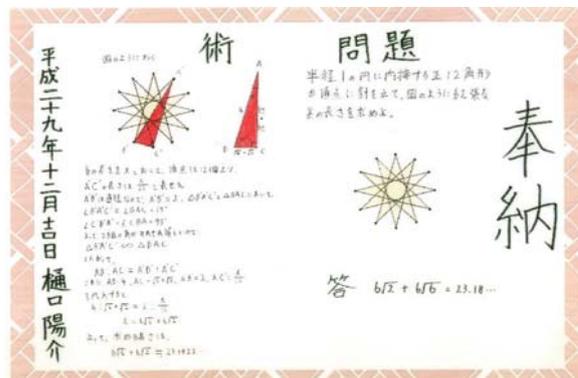
いじめは、侮辱罪や傷害罪、名誉棄損罪などを問われる立派な犯罪です。絶対にはいけません。

いじめが世界から1日でも早くなくなることを願います。

第20回算額を作ろうコンクール
(NPO和算主催)奨励賞

制御情報工学科2年 樋口 陽介

算額として問題を奉納するというものは初めての経験だったのですが、今回奨励賞という形で賞をいただけて光栄に思います。今回の奉納を通して、和算の問題を奉納する、そしてその解法を“術”と表現する、というところがすごくいいなと思い、算額というものは素晴らしい日本の文化だなと感じました。

第4回武蔵野大学数理工学コンクール
審査員賞「血液型の割合の研究」

生物応用化学科3年 古澤 聖太

人体の様々な現象に興味を持っていたのですが、今回遺伝による血液型の割合を研究しました。ある世代の割合を決めた時、その子孫の血液型の割合がどうなるかを研究しました。世代によって割合が余り変わらないという結果が出ました。懇談会で今後の研究のヒントを教えてくださいましたので、今後も研究を続けたいと思っています。



第54回化学関連支部合同大会 有機化学部門・最優秀ポスター賞

物質工学専攻2年 田中 穂乃香

昨年7月1日に北九州国際会議場で「第54回化学関連支部合同九州大会」が開催され、有機化学や化学工学、電気化学といった様々な分野の発表が行われました。私は、有機化学部門に参加し、最優秀ポスター賞を頂くことができました。本部門には110件の参加があり、大半が大学院生の発表という中で受賞できたことは、非常に嬉しかったです。8月には、「有機合成化学協会 若手研究者のためのセミナー」において受賞講演を行い、大変貴重な経験となりました。発表では、多くの先生方からもご質問、討論させていただくことができ、自分の研究を多方面から見直すことができました。この経験を生かし、今後の研究活動にも力を入れていきたいと考えています。



情報オリンピック本選成績優秀者及び九州・沖縄ブロック奨励賞成績優秀者

制御情報工学科3年 檜原 晃都

昨年度末に、日本情報オリンピックという競技プログラミングの大会に出場し、本選成績優秀者、九州・沖縄ブロック奨励賞成績優秀者に選ばれました。この大会は、予選、本選、春合宿に分かれており、プログラミングとアルゴリズムの能力を問う問題が出題されます。

予選は無事突破することができました、一年生のときに出場した際には、自分の力で予選を突破することができなかったもので、一年間で大きく成長できたと実感しました。本選では、三問目の問題に手間取ってしまい、三問目までしか解くことができませんでしたが、何とか上位20人に入り、春合宿へ参加することができました。

春合宿では、本選よりも難易度が高い問題が出題され、ほとんど解くことができませんでした。しかし、多くの問題を解いている参加者と話す機会があり、とても有意義な時間を過ごす事ができました。

情報オリンピックは、二年生までしか出場できないので、僕はもう参加することができません。これからは、自分の技術を高めるとともに、後輩たちへの教育に力を入れていこうと考えています。



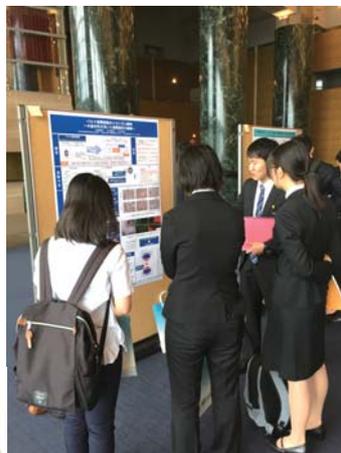
金属学会での受賞

物質工学専攻2年 坂巻 巧

この度、僕は日本金属学会九州支部 日本鉄鋼協会九州支部 軽金属学会九州支部合同学術講演会のポスター発表にて優秀賞をいただきました。ご指導いただいた川上雄士教授、共同研究者の佐賀大学三沢達也助教をはじめ、ご指導いただいた全ての方に深く感謝申し上げます。

今回の発表は「パルス通電焼結のメカニズム解明～共晶材料を用いた通電箇所を観察～」というテーマで、パルス通電焼結装置で生じる試料内部の高温領域の温度のみが共晶材料の共晶点を超えるように焼結条件を設定し、高温領域のみを共晶反応させることで、焼結時の温度分布を組織により観測するというものです。このテーマには昨年から取り組んでおり、専攻科研究基礎発表で報告したところ、考察の甘い箇所に容赦の無い質問をいただきました。今回の発表ではその点を補う追加実験を行い、論理的に説明できる内容になるよう尽力しました。その結果このような大変名誉ある賞をいただき、これまでの自分の努力が報われたように感じ、大変嬉しく思います。

この学会でも同様に他大学の先生方と多くの質疑応答をし、大変有意義なご意見をいただきました。この経験を糧にこれからの研究も頑張っていきます。



ITSアイデアソンに参加して

機械・電気システム工学専攻1年
甲斐田 新乃輔

第16回アジア太平洋地域 ITS フォーラム(2018 福岡)にて開催された ITS アイデアソンに5/7(月)～5/10(木)の4日間参加してきました。アイデアソンというのはアイデアとマラソンを合わせた造語で、特定のテーマについてチームで議論しあって新しいアイデアを生み出していくイベントです。また ITS とは Intelligent Transport Systems: 高度道路交通システムのことで、道路交通の場において発生する事故、渋滞、環境対策などの課題を様々な分野の技術を活用して解決していくシステムを指します。今回は「ITSを活用して、いかにアジア各国の交通事故を減らすか」というテーマで開催されました。

アイデアソンには九州・沖縄の高専生や留学生、さらに香港、シンガポール、モンゴルなどアジアのたくさんの国の学生が参加していました。1日目は ITS について勉強した後福岡市科学館を見学しました。2日目から本格的にアイデアソンが始まりました。まず、テーマについてアイデアを自分で考えチームの中で発表し合い、さらにその中からよかったアイデアを選出し全体で投票しました。3日目は2日目に絞られた11個のアイデアについて、自分がいいと思うアイデアでチームを再編しさらにチームで議論しあってより高めていきました。最終日はアイデアを全体の前で発表し、その後表彰式が行われました。自分のチームは最優秀賞を頂くことができました。最優秀賞に至った要因は、アイデアだけではなくチームワークがよかったとのコメントを頂きました。自分は英語があまり得意ではないので外国の学生とコミュニケーションをとるのはかなり大変でしたが、アイデアソン中はもちろん宿泊施設でもチームで集まってたくさん交流して仲良くなったのでそこが良い結果に繋がったのだと思います。

今回参加してみて、たくさんの国の学生のアイデアや考え方を聞いたのはとても良い経験になりました。道路交通の課題は世界中でまだまだたくさんあるので、今後も ITS の発展を目指して研究をしていきたいと思っています。



国際交流

タイ王国キングモンクット
工科大学ラカバン校訪問機械・電気システム工学専攻1年
大石 つぐみ・溝上 智仁・平川 智也

3月の月初めに、私たち3人がタイ王国のキングモンクット工科大学ラカバンへ向かうことが決まりました。キングモンクット工科大学は、本校にも留学生がいらしてるほどつながりが深い大学です。そのため、今回は私たちがキングモンクット工科大学の見学に行かせていただきました。日本を出発する時には長袖の上着を着ていたのですが、タイに到着した瞬間には半袖になるくらいの気温でした。タイは昼間の最高気温が38度ほどあり、日本とはとても違った気候でした。無事に到着した私たちは現地の方に迎えに来ていただいて、キングモンクット工科大学ラカバンへ向かいました。校内は線路も通っており、小さな町のようになっていました。

私たちはInformation Technology部門に迎えていただいて、建物の中を案内していただきました。パソコンを使った演習が可能な教室、実際にサーバーを扱い学習ができる設備などがありました。様々な研究室でそれぞれ違う研究テーマを持ち、同年代の人たちが研究に没頭していました。研究室を訪問すると、同年代の学生さんや研究室の先生方が、研究内容を紹介してくださいました。私の研究している分野に近かったこともあり、とても興味深く、貴重なお話を聞かせていただきました。それと同時に、自分たちと同じ年代の方がバリバリ研究していることが刺激となり、日本に帰ってきて一層研究に励むことができている。タイの食事は日本とは全く異なりました。日本でも有名なトムヤムクン、くり抜いたココナッツに盛られているココナッツカレーなどタイならではの食事を楽しませていただきました。私は辛い物が苦手なのですが、辛みや酸味などの複雑に絡み合った味わいが私の食欲をくすぐり、箸を進ませました。

普段は海外へ、ましてや海外の大学へ行く機会などそうそうあるものではありません。しかし、このような学校に用意していただいたチャンスを自分のものにする事で、学校にただいまして学ぶことができない新鮮な価値観に触れることができます。少しでも興味がある方は、ぜひこの機会を利用していただき、自分と同じような感動を味わってほしいと思います。

マレーシアでの国際交流に参加して
物質工学専攻2年 中島 美遥

“Fish or Meat?” …普通に聞き取れそうな言葉も聞き取れず、隣の先生の真似をしてご飯を頼みました。私は2月に開催されたマレーシアでの国際交流に参加させていただきました。約10時間のマレーシアまでのフライトで、機内のアナウンスはもちろん飲み物を聞かれる際も英語で、日常会話もままならない程の英語力の私は楽しみの反面、圧倒的不安に駆られました。日本を出発したときは朝であったにも関わらず、マレーシアに到着したときにははっきり日が暮れており、車で市内まで移動しました。市内までの道中はいたるところに街灯が設置されており、絶景でした。市内に到着すると久留米より数十倍もキラキラしており、クアラルンプールを象徴するツインタワーを取り囲むように高層ビルがそびえたっていました。これまで、マレーシアは発展途上国のイメージがありましたが、これは私の勝手な想像であったと実感しました。

今回の国際交流のメインであるマレーシア工科大学は、とてもきれいな建物で実験設備も十分に整っていました。日本人の先生に学内を案内していただき、研究室見学の際に各研究室の学生から英語で装置の説明を受けました。正直、ときには理解できない説明もありましたが、ジェスチャーで伝えてくださり、優しさを感じました。授業にも参加させていただき、その際に私たちは、日本と久留米高専に関する紹介をしました。私の話す英語は日本語に近いとよく言われます。大勢を前にしている緊張感に加え、私のジャパニーズイングリッシュを話すことへの恥ずかしさも加わり、大変聞きとりづらい発表になりました。しかし、真剣に話を聞いてくださり、多くの質問をしていただき、私の話は伝わっていないわけではないことが分かりました。私は発音を気にして、人前で英語を話す事を躊躇ってしまうことが多くありますが、伝えようとする姿勢が大切であると考えさせられました。

最終日、ホテルのフロントに荷物を預ける際に、英語で何と云えばいいか分かりませんでした。困ったときに使用したのは、“Google翻訳”！今回の国際交流のいろんな場面でお世話になりました。しかし、相手が言っていることは理解できません。今回の経験を通して、自身の英語力の未熟さを実感しました。英語でコミュニケーションを取れるようになることで、視野が数百倍も数千倍も大きくなると思うので、今後は英語能力を向上していきたいと強く思いました。今回のマレーシアの国際交流で得た多くの経験を、今後の成長の糧にしたいと思います。

最後になりましたが、マレーシア工科大学の皆様と今回の国際交流にご協力して頂いた先生方に心より感謝いたします。



国際交流

日本・アジア青少年サイエンス交流事業
(さくらサイエンスプラン)を実施しました

本校が、国立研究開発法人科学技術振興機構の日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン)に採択し、平成30年6月17日より、タイのキングモンクット工科大学ラカバン校、カセサート大学の学生を招へいし、6日間のプログラムを実施致しました。

プログラム期間中は、招へい学生と本校学生との共同演習を行い、英語の授業における本科生との交流や、専攻科生との技術英語の授業では研究内容等に関する英語での発表に参加しました。

さらに、プログラミングラボ部やロボットコンテスト部との学生交流も実施され、ものづくり教育センターも見学しました。

また、学外見学では、安川電機、トヨタ自動車九州へ産業ロボットや機械工業に関する工場見学のほか、青少年科学館を見学しました。

最終日の修了式では、三川校長から招へい学生へ修了証書の授与があった後、三川校長と招へい学生との懇談が行われ、学生からこのプログラムへの感想などが述べられました。

この事業を通じ、海外の大学との良い国際交流の場となり、招へい学生や本校学生も素晴らしい刺激を受けたことと思えます。



救命救急講習会を開催しました

平成30年6月25日(月)、久留米広域消防本部から講師を迎え、心肺停止時や負傷者の発生時に備えた救命救急措置の方法について、教職員向け講習会を本校D4教室にて開催しました。

救急隊が到着するまでの一次救命措置の重要性や、傷病者を発見した際の手順について講義を受けた後は、参加者全員が実際に胸骨圧迫や人工呼吸を訓練し、より具体的な内容で質疑応答が行われる等、充実した内容の講習会となりました。



名誉教授称号授与式が執り行われました

平成30年3月31日付けで定年退職された、綾部隆教授(制御情報工学科)のこれまでの御功績に対し、本校名誉教授称号授与規程第2条に基づき、平成30年4月18日付けで名誉教授の称号が授与されました。



名誉教授の称号が授与された綾部教授(写真前段中央)